

きほく里山体験笑楽校

施策のポイント

紀北町・下河内の里山を守る会・きほくふるさと体験塾の3団体が相互理解、協力する団体（きほく里山体験笑楽校）を作ることにより、相乗効果を生み出し、里山の保全活動や交流人口の増加による地域活性化の効果増を図る。

自治体情報

三重県紀北町

人口 / 19,194人

標準財政規模 / 6,132,791千円

担当課 産業振興課

電話番号 直通 0597-32-3903

実施主体 きほく里山体験笑楽校

関連ホームページ <http://kihokusatoyama.com/index.html>

事業期間 平成20年度から平成21年度まで

参考とした施策

関係施策分類 ③

施策の概要

1 取組に至る背景・目的

紀北町十須の下河内地区には、昔ながらの「里山」が残されている。この里山は、過疎化により人口が激減し、空き家や遊休農地が増えている。きほく里山体験笑楽校では、この空き家や遊休農地を利用し、農業体験やそば打ち体験等様々な自然体験をすることができ、それを通じて、景観保全や交流人口の増加を目指している。

2 取り組みの具体的内容

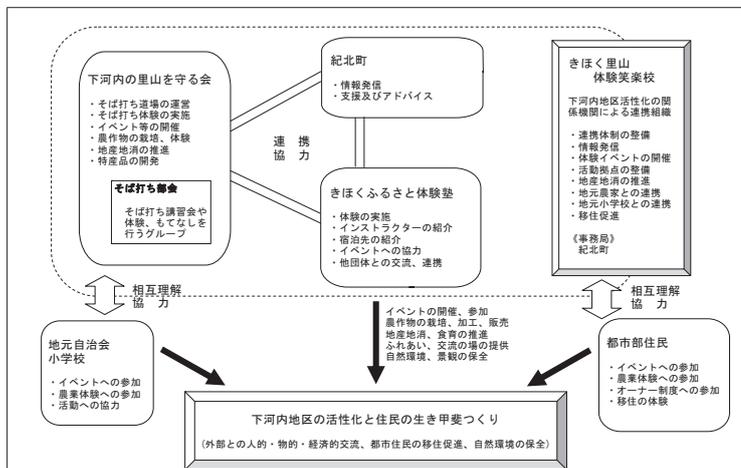
かつて他地域との交流拠点であった「旅館旭屋」を整備・復活させ、そば打ち道場として常時体験ができる環境を整えるほか、会の活動拠点として活用することで、里山の雰囲気や大切にされた空間を楽しんでもらい同時に利用されていない建物を利用することにより、下河内ならではの風景を保全した。

また、下河内ではそばを栽培しており、下河内の里山を守る会では、素人そば打ちの段位取得者が10名以上いるため、上記「旅館旭屋」において、そば打ち講習会や体験イベントを開催し交流を深めた。

3 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

下河内地区の人々はもとより町内全域、地域全域へと里山を守り続けていく意識が生まれ、普段当たり前に触れている美しい自然がいかに貴重で大切なものかに気づくきっかけとすること。また、町内外から多くの人々が訪れ滞在することで地域が潤い活性化し、多くのお客様を迎え、もてなし、ふれあうことで高齢者の生きがいややりがいを創出し、日々健康で活力のあふれる生活を送ること。さらに、体験観光を推進する紀北町において、体験観光の礎を創る先駆けとして積極的に行動を起こし、全国にPRし、売り出し、認知してもらおう一端を担うこと。

地域協議会の組織図及び活動分担表



4 現在までの実績・成果

古民家旭屋の復活整備、体験用農地の整備、体験メニューの整備、実施、県内外へのPR活動、加工直売所の整備などを会員の作業により行い、1年間の交流人口が400名を超え、下河内ファンの獲得、紀北町のPRにつながっている。

5 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

従来、このような団体は、行政の補助金・負担金等に頼り、その補助がなくなれば活動も終わることが多いが、自立した組織にしていくことに留意した。会議等で意識改革に努めた。

6 今後の展開と課題

改修した「旅館旭屋」を利用し、地元の野菜や、漬物、手打ちそば等を販売する販売所を設置していきたい。



予算関連データ

総額 ①~⑤の計		財源内訳(財源区分:①~⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
5,406千円		5,000千円	0千円	0千円	406千円	0千円
①~④の名称、 所管など	名称	農山漁村地域力 発掘支援モデル事業			体験等負担金	/
	所管	農林水産省			体験参加者	
	金額	5,000千円			406千円	
	補助率	100%			-	

提供可能資料：きほく里山体験笑楽校規約